



THE MUSEUM AT A GLANCE

ツアー ガイドおよび現地観光スタッフ向け情報シート

建築の美しさが目を引くカナダ戦争博物館 (CWM: Canadian War Museum) は、軍事史を扱う国立博物館。決して見逃さないスポットです。

戦争博物館の目的: カナダ戦争博物館は、国内外におけるカナダの軍事活動を世に伝え、後世に残す役割を担います。当博物館は、戦争による犠牲と損失を通じ、平和の追求について考える場を提供しています。

設計者: 新しい CWM は、Moriyama & Teshima Architects のレイモンド・モリヤマと、Griffiths Rankin Cook Architects のアレックス・ランキンというカナダの建築家たちによって設計されました。

理念: 「再生」というテーマを念頭に置いて設計されたこの新しいカナダ戦争博物館は、周囲の景観に溶け込むように佇んでいます。草で覆われた屋根と背丈の低さは、戦争や紛争による荒廃から蘇る自然の姿を思わせます。

建材: コンクリートを主な資材とする建築に、壁一面を覆う薄板ガラスの窓と銅張りの屋根が趣を添えています。また、傾斜のついた壁は、戦争という情勢の不安定さを想起させます。空を突くようにそびえ立つリジェネレーション ホールの窓は、「忘れるなかれ (Lest we forget)」の言葉をモルス信号で表したものです。

館内: 建物は、当博物館の膨大な美術品 (その数およそ 1 万 3000 点) および軍用車両や大砲を含む幅広い歴史的遺物の常設展示を想定して設計されています。印象的なデザインのリブルトン ギャラリー (ガラス壁のエリア) には、戦闘機ブードゥーのほか、19 世紀の大砲、戦車、さまざまな車両が展示されています。追悼と反省をテーマとするメモリアル ホールには、ある無名戦士の墓石だけが展示されており、毎年 11 月 11 日、戦没者追悼記念日 (Remembrance Day) の午前 11 時になると、この墓石が太陽の光に照らされます。また、当博物館のメインとなる常設展示エリアは、カナダの軍事史における重要な事件や転機となる出来事にスポットを当てています。ここでは、個人の体験談や美術品、歴史的遺物、写真、インタラクティブ プレゼンテーションを通じて、紛争の歴史を再認識できます。

豆知識: 環境にやさしい作り (川の水を使用した冷却システム、エネルギー効率を高めるためフライアッシュを再利用したコンクリート、自然播種の土着の草を使用した手のかからない屋根、議会図書館の屋根をリサイクルした銅製の内装)。

敷地面積 40,860 平方メートル (およそ 44 万平方フィート)。

屋内スペースの 65 パーセント以上にアクセシビリティを確保 (多くの博物館では平均 35~40 パーセント)。

団体専用プログラム: 団体のお客様のみご利用いただける「歴史の証人 (Witness to History)」プログラムが用意されています。このプログラムは、カナダを形作った歴史的な出来事を、軍人などの体験談を聞きながら学ぶことができる貴重な機会を提供します。

サービス: リバーサイド テラスのあるカフェテリア・ブティック・手荷物預かり所・駐車場・団体入場口・クラスルーム・ガイド付きツアー・ミーティング スペース

開館時間: 月曜から日曜の午前 9 時 30 分から午後 6 時まで (木曜は午後 8 時まで)

アクセス: パーラメントヒルからの場合: ウェリントン ストリート (Wellington Street) を西に進み、ヴィミー プレイス (Vimy Place) を右折。

カナダ歴史博物館からの場合: ローリエ ストリート (Laurier St.) を左折し、エディ ストリート (Eddy Street) を左折。そのままジョディエール橋を渡り、ヴィミー プレイス (Vimy Place) を右折。